巻頭言

成長する情報セキュリティ技術

Evolving Information Security Technologies

落合　正雄
OCHIAI Masao

東芝は，1995年1月に，研究開発センター内にセキュリティ技術センターを開設し，東芝グループとして本格的な情報セキュリティ技術の研究開発を始めました。当時は，情報セキュリティかくあるべしという議論はなされていても実践はまだ少なく，例えばパソコンでは，OS（基本ソフトウェア）に実装された基本的なセキュリティ機能や，少数のセキュアメールに限られていました。個々の技術が点在しているという状況でした。

その後の12年間，IT（情報技術）が社会生活へ浸透するとともに不正アクセスなどの脅威も増大し，情報セキュリティはITを利用するうえで不可欠なものになりました。まさに隔世の感があります。情報セキュリティの個々の技術は，相互に連携しあって点から線へ，更に線から面へと発展し，例えば，交通システムの料金収受や音楽配信サービスなど，社会生活をしっかりと支えるようになってきています。

一方，技術の進歩とともに，電子署名法，不正アクセス禁止法，及び個人情報保護法など関連法規の整備も進んでいます。とかく技術面が強調されがちであった情報セキュリティも，厳格な法順守のために，業務手続きなどの非技術面も含めた組織を挙げての対応が必要であることが認識され，ISO/IEC 27000（国際標準化機構／国際電気標準会議規格 27000）シリーズに沿った情報セキュリティマネジメントが一般化してきました。東芝グループも，技術の研究開発にとどまらず，ISMS（情報セキュリティ マネジメントシステム）やISO/IEC 15408の認証取得のためのコンサルテーションにも幅を広げてきました。

発展の著しい情報セキュリティ技術ですが，今後は更に，適用分野を拡大し，すべての情報システムにあるべきセキュリティが確実に備えられ，運用されなければなりません。そのためには，エンドユーザーの方々が意識しなくても実行されるような情報セキュリティ技術を，システム構築時に組み込んでいく仕組みが必要です。また，これと並行して，脆弱（ぜいじゃく）性を狙い日々しかけられる攻撃に対処するため，より強固な要素技術の研究開発を継続していくことも必要です。

この特集では，東芝グループで推進している以上のような研究開発の一端をご紹介します。

東芝ソリューション（株）　取締役　統括技師長　　Toshiba Solutions Corp.